

## 保護者の皆様へ

かつらしめた

### 落語家 桂枝女太氏 講演会のご案内

#### 演題 「ひとつのことばに傷ついて、ひとつのことばに助けられ」

来る10月10日に落語家、桂枝女太さんの講演会を予定しています。日々子どもと向き合う私たち教職員が日常的に使うことばに敏感になれるように、無自覚に相手を傷つけるようなことばを使っていないか、そんなことに気づけるような時間にしたいと思い教職員の研修会として企画しました。落語家さんがお話になるので楽しく聞けるのではないかと期待しています。席に余裕があったら保護者の皆様もお誘いしようと計画しておりましたので、案内が直前になり申し訳ありません。会場は80席余裕がありますので、参加できる方はどうぞお申し込みください。

※教員研修の形を取っていますが、保護者の皆様も同様に講演を聞くことができます。

※申し訳ありませんが託児はありません、お子さんの同席もできません。

令和5年9月26日(火)

沼津市私立幼稚園協会 会長 鶴谷圭一

日時・場所 令和5年10月10日(火) 16:15~18:30

沼津リバーサイドホテル

(駐車場が限られていますので満車時は近隣のパーキングをご利用ください。)

時間 16:15 受付

(講演までに協会のプログラムを進行させていただきます。)

16:50 講演→ 18:30 講演終了→解散

参加申込 Googleフォームでお申し込みください。当日受け付けもOK→

<https://forms.gle/jDSKX2pbeaCK5LoM7>

一人ずつお申し込み下さい。80人で締め切らせて頂きます。

申し込まれた方は各自時間までに会場においで下さい。



講師 落語家 桂枝女太(かつら しめた)氏



#### 桂枝女太氏プロフィール

公益社団法人上方落語協会 理事

同協会WEB広報誌「んなあほな」編集長

1958年7月15日生 大阪府豊中市出身

1977年1月1日 高校在学中に、故・五代目桂文枝(当時は桂小文枝)に入門

1986年朝日放送「ABC漫才・落語新人コンクール」にて最優秀新人賞を受賞

なんばグランド花月、天満天神繁昌亭、各種落語会、地域寄席、講演会等に出演

2002年末まで、KBS滋賀ラジオのパーソナリティを約12年間勤める

2022年 芸能生活45周年記念独演会を天満天神繁昌亭で開催

(文化庁芸術祭参加作品)

日本で唯一のお囃子ジャズバンド「粋〜てすとさうんど」の

メンバーとして音楽活動も展開

2015年1月にはCD「お囃子JAZZ 音伎囃(おとぎばなし)」を発売

趣味 野球(落語家の草野球チーム「モッチャリーズ」監督兼主力?選手)

津軽三味線

特技 バレーボール

☆講演内容については

次ページ(裏面)のメッセージをお読み下さい。

# 桂枝女太さんからのメッセージ

**言葉**にまつわる講演のご案内です。**楽しみながら、笑いながら聞いていただける**講演会です。

コロナ禍が落ち着いて元の生活を取り戻すとき、「ことば」の持つ意味を改めて考え直す機会にしたい。

**「ひとつの言葉に傷ついて、ひとつの言葉に助けられ」**

落語家の講演ですから、笑って楽しみながら聞いていただけます。

## 笑って楽しめる講演会

～差別用語の正体～「たっぷり笑って少し考えて・言葉のちから」

落語家になって45年以上舞台に立ち続け、

良きにつけ悪きにつけ言葉の持つちからというものを痛感しました。

とくに子育て中の方々には一緒に考えていただきたいと思います。

部落差別、男女差別、国籍差別、職業差別、いじめ等々、

様々な差別や人権問題に共通している要素に「言葉」の使い方があります。

### 「～のくせに」

この一言の使い方に注意するだけで相当やさしくなれます。

「差別をなくそう」「差別をやめよう」「差別する気持ちを持たないようにしよう」。当然のことですがどうすれば実行できるのか。

## ラジオのパーソナリティをして学んだこと

長年ラジオのパーソナリティとして生放送というものに携わった経験から、差別用語(放送禁止用語)というものについても深く考える機会がありました。身体に障害をお持ちの方への差別用語、職業や思想信条に対する差別用語等、生放送に関わるとかなり広範囲に気を遣わなければなりません。昔は普通に使っていた言葉が、ここ数十年のうちになぜ嫌な言葉と感じるようになったのかの考察。

### 「芸人」が差別用語？

「芸人」という言葉が差別用語(放送禁止用語)といわれたことがあります。

芸能に携わる者を見下した言い方であるということらしいのです。

「芸人」という言葉は差別用語ではありません。しかしながら若い頃「芸人のくせに」と言われて不愉快になったことがありました。

### 「子供」を「子ども」と表記するのはなぜ？

役所などの公式文書から「子供」という表記が消え「子ども」となっています。

どちらでもいいと思いますが、この風潮はどこからきたのか……。またそこに大きな問題があることにお気づきでしょうか。

### 「なくす」だけでは差別の気持ちは消えない！

「悪いことば」をただ無くしてしまえば良いのか。

落語の中にも差別用語が登場する噺がたくさんあります。我々落語家はそういった噺をなくさないためにも、言い換え等の工夫をしてなんとか演じております。しかしそれだけで良いのでしょうか。「悪い言葉」を駆逐するだけで解決するものではありません。

以上が私の人権教育講演「たっぷり笑って少し考えて～言葉のちから～」の要旨です。